

奇跡で信じる？

人々は奇跡を求める。奇跡が起れば神の働きたと認める。奇跡を行う人を神の子と認める。フアリサイ派やサドカイ派の人々もイエスに奇跡を求めた。イエスを試みた。イエスは奇跡をせずにそこから立ち去る。

イエスは弟子たちに彼らのそのような考えに注意せよと言った。

弟子たちはそのイエスの注意を聞き入れた。そこでイエスは弟子たちに尋ねる。「あなたがたはわたしを何者だと言うのか」。シモン・ペトロが答える。「あなたはメシア、生きておられる神の子」

このように答えたシモンにイエスは言う。「あなたはこのことを現したのは天の父」。神からの力によって言えること。

ペトロはイエスの奇跡を見たからイエスを神の子メシアと認

めたのではない。神からの力によって、つまり、天の父の「見方」によってイエスをメシアと見ることができた。

このペトロの宣言を聞いて、イエスも言う。「あなたはペトロ(岩)。この岩の上にわたしの



民の集い、教会を築く。

イエスをメシアだと見抜く

「神からの力」とは何か。天の父の「見方」とはどういうことか。それは低みにあって弱く見えるイエスの中に働く神からの力を見抜くこと。弱さの中にある強さを見抜くこと。

ある方々が喜々として話してくれた。「がんが治ったんですよ。わたしたちが手を置いて祈ったら、その人のがんが治ったんです。奇跡です。神様はわたしたちの祈りを聞いてくださったんです。神父様は奇跡を見たことがありますか」

わたしは答えた。「教えきれないほど何度も奇跡は見たことがあります。人に言うことでもないのと言わないだけです」。その方々は少し驚いたようだが、けんそんにしていた。

奇跡は父である神の思いが実現することであって、人の思い通りになることではない。人はえてして自分の思いを神に押し付ける。自分の思い通りになると「神がいる」と言い、「奇跡が起った」と騒ぐ。

神は静かなところで静かに、しかし、力強く働かれる。病気が癒やされなくても、がんが治らなくても、イエスは神の子、メシア、キリスト、救い主であることを認めることのできる人

々がいる。身を低くして、同じ目線であわれみのまなざしを注いでくださる方と出会うとき、人は救われる。それを奇跡と呼ぶなら、そのような奇跡は数えきれないほど見てきた。

岩の上に神から呼ばれた者たちの集いである教会が築かれる。岩は土台。地にあるもの。神の民の集いはしっかりと地に足を据えている。地から離れて浮いているものではない。
(山元眞||福岡教区司祭/カotto上下とも||高崎紀子)

この週の福音

25日・月	マタイ	23・13—22
26日・火	マタイ	23・23—26
27日・水	マタイ	23・27—32
28日・木	マタイ	24・42—51
29日・金	マルコ	6・17—29
30日・土	マタイ	25・14—30

キリストの光 光のキリスト